



○ インクルージョン

東雲祭1日目に講演会を行いました。講演タイトルは「寄り添える関係づくり」、講師は大久保暁先生でした。大久保先生は、大久保家の長女として生まれ、現在は戸籍を男性へと変更して結婚されたことは、講演でもお話になりました。当日はステージにご夫婦、そしてお子様も一緒に上がった姿から、先生の言われる「家族の形はそれぞれだし、幸せもそれぞれ。それを決めるのは自分自身。」という言葉と相まっ



て、LGBTQ への理解を通じて、寄り添い合える、そして仲間を気遣い支え合う集団となるためにはどうしたらよいか、真剣に考えた生徒がほとんどだったと思います。

日本国憲法第14条には「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分または門地により、政治的、経済的、社会的関係において、差別されない。」とあり、法の下での平等を保障しています。

一方、多様性とは「人種、信条、性別、社会的身分、年齢、国籍、障がいの有無、性的指向・性自認などにかかわらず、お互いを個人として尊重していくこと」ことだと思っています。それは、おもてなしの気持ちと一緒に、互いの尊厳を大事にしつつ対等な関係かどうかが大切なことと同じだと思っています。いわゆるサービスなどとは違い、「してもらっている」「してあげている」気持ちからのものではなく、ホスピタリティが根底にあるかどうかです。

差別がなく、多様性を受け入れている組織や集団では、誰もが希望を持って自分らしく生きることができ、それぞれの個性や能力を十分に発揮することができます。多様な人々を受け入れ、活かしていくことが「ダイバーシティ」であり、そのことが組織や集団としての一体感を持つことにつながるのが「インクルージョン」の考え方だと思っています。だからこそ学校は、インクルージョンな集団・組織でないといけません。

大久保先生へのお礼状で次のようなことを学校から伝えています。

・・・講演において、性的指向と性自認の2点から「性の多様性」を明快に示され、そのうえで、「悩んでいることはそれぞれ違う」と語られたことで、ともすれば、一括りで捉えてしまいがちな受け止め方の誤りと、一人ひとりにしっかり向き合うこと、寄り添うことの大切さを学ぶことができた、またとない機会となりました。

ある生徒は「講演をしてくださったおかげで学園祭中も友だちのことを考えられた」という感想を書いています。大久保先生の言葉が生徒の中に残り、行動を変容させている

ことが伝わってまいりました。また、この感想の中の「友だち」とはどのような意味なのかに思いをはせた時、「性の多様性」についての理解を深めることは、本校にとって喫緊の課題であることを教えてくるものでもありました。

ステージ上で、ご自身のこれまでを語られる大久保先生の姿、一緒にステージに上がったご家族の姿は、まさに「自分の幸せのかたちは自分で決める」ことが作り出す幸福な個人、家族そのものでありました。大久保先生の言葉、ご家族の姿を、本校の生徒、教職員の指針、ロールモデルとして大切にしていきたいと思います。・・・

大久保先生から講演後、個人的にメールをいただきました。

・・・先日は全校生徒さん向けに講演をさせていただきまして、誠にありがとうございました。皆さまに温かく迎え入れていただき心より感謝申し上げます。LGBTQ についてはだいぶ認知度が高まってきたとは言え、まだまだ相談できず困っている人は多いと思います。正しい知識が広まっていくようこれからも頑張ってお伝え続けていきたいと思っています。・・・

私自身、先生に負けないように頑張らないと、と思った講演会でした。

【講演会パンフレットより】

◎プロフィール

大久保家の長女として生を授かる。幼い頃から男物の服などを好み2歳上の兄のお下がりをよく着ていた。いわゆるやんちゃでボーイッシュな女の子。それゆえ、女子トイレに入ると男の子と間違えられることもしばしば。周りから白い目で見られ、社会で生活する生きづらさを抱える毎日。何年もの間、自分と社会と葛藤してきたが、現在は戸籍も男性へと変更し、結婚もして幸せに暮らしている。自分と同じような悩みを持つ人の力になりたいという想いで、全国各地で講演活動を展開。教員経験もあり、学校現場での教職員の方への啓発活動や、当事者・当事者家族への心のケアなども目的としている。

◎テーマ

LGBT セミナー～寄り添える関係づくり～

LGBT(性的マイノリティ)と言われる人は日本に 10 人に 1 人存在 と言われています。出会ったことがない、テレビの中の人でしょ、と思われる方もいらっしゃると思いますが、実は皆さんの身近に存在しています。決して特別な人ではなく、ごく普通に皆さんと同じように生活をしています。ですが未だ偏見や差別はあり、苦しめられている人がいるのは事実です。ではどのようなことで困っているのでしょうか。また目の前の子どもたちからカミングアウトがあったらどのように話を聞いてあげたら良いでしょうか。カミングアウトは必ずしもしなければいけないわけではありません。カミングアウトせずとも受け入れられる学級運営を考えていきましょう。